

学情センターで開催される『上方文化講座』(8月20日-22日)にあわせて、「人形浄瑠璃文楽」に関する本を展示します。

「人形浄瑠璃文楽」は、三業(太夫・三味線弾き・人形遣い)が息を合わせて、一つの物語を演じる伝統芸能です。ここ大阪の地で時代を越えて育まれてきました。ユネスコの無形文化遺産でもあります。

今回の展示では、文楽観劇未経験の方から愛好者まで誰でも楽しめるよう、「文楽」の入門書、作品やあらすじ、芸談、興行の変遷、舞台のしくみや人形についての本、研究書、文楽公演のプログラムなど、幅広い本を集めています。

人形浄瑠璃文楽 を楽しむ

— 『上方文化講座』にあわせて —

<2019年度講座「心中天網島」>

『上方文化講座』は、「文楽」を学問的体系のもとに学ぼうとする文学部の特別授業科目で、竹本津駒太夫(太夫)・鶴澤清介(三味線)・桐竹勘十郎(人形遣い)の三師を本学客員教授としてお迎えし、毎年開催されています。「文楽」の実演も行われ、大人気の講座になっています。

その『上方文化講座』で今年度取り上げる「心中天網島」やその作者である近松門左衛門の関連本に加え、桐竹勘十郎師のご著書も展示します。また、これまでの『上方文化講座』の様子を写真パネルでご紹介します。

11月には国立文楽劇場でその「心中天網島」が上演されます。残暑厳しいこの時期に、『上方文化講座』と共に、本からも「文楽」を楽しんでいただき、今後の文楽の観劇の際に、ぜひ、役立ててください。

